



松浦さんは2年生と2人の中学生の父親

♪おやじの会ができたきっかけは。
松浦 川北小PTA恒例の「ふれあいまつり」というイベントで9年ほど前に数人の父親が竹馬作りをしました。翌年にはお化け屋敷を手伝ったのですが、その時集まった6人の父親で「地域のパトロールをしよう」と盛り上がりつつ。

♪会を活発なものにするため心掛けていることは。
松浦 「できる人が、できることを、できる時にやる」ということ。会には規約がなく、児童の父親全員がメンバーです。無理なく気楽に活動できるのが何より。父親同士が仲良くなると参加しやすくなるので、遊びから入るのもありだと思います。

おやじの会について、代表の柳沢さんと、会ができた当時からメンバーでPTA会長の松浦さんに伺いました。



柳沢さんは2年生と5年生の父親

柳沢 父親自身が楽しむことですね。私がおやじの会の活動に積極的になったきっかけは、会の野球部なんです。義理の弟が在籍していて、自分も「体を動かしたい」と思っていたところだったので、入ってみようと思った。そのうち会の活動にはまってしまいました。

♪会での活動を始めて変わったことは。

松浦 活動を通じて知り合った皆さんの子育てに対する前向きな姿勢に影響されて、親としての自覚が強くなりました。

柳沢 家族との共通の話題が増えたせいかな、家でもよく話すようになりました。家族は「すごく明るくなった」と。いろんなお父さんたちと知り合えたのも収穫ですね。

♪おやじバンドの存在意義についてのお考えを。

松浦 演奏を楽しんでもらい、父親たちががんばっている姿を見てもらうことで、親子の触れ合いというものを引き出せたらいいのかなと思っています。

♪「おやじの会を作りたいたい」という方に助言を。

松浦 こういう活動は、楽しむことから始めるのがいいと思います。私たちが会を立ち上げたのも、「奥さんや子どもたちも一緒にみんなワイワイやろう」という気持ちで原点。楽しんで、仲良くなって、活動を広げていくというのが良いのではないのでしょうか。

お母さんたちの協力は不可欠だと思えます。お母さん同士が仲良くなってくれると、おやじの会の活動もすくすくスムーズですよ。

お二人のお話から、和気あいあいとした活動の様子が伝わってきました。

バンドや野球、イベントなどで間口を広げていることが、気軽な参加を進めているようです。

楽しく無理のない活動を通じて仲間や家族、地域とのコミュニケーションを深めているおやじの会の在り方は、ほかの地域活動の参考にもなるかもしれません。

編集に参加して

テーマ選定をはじめ、企画、取材、レイアウト、校正と、一連の編集作業に参加したモニターの皆さんの声をご紹介します。

- ◆ いろいろな意見を聞くことができ勉強になりました。また機会があれば参加してみたいです。(柿崎里佳さん)
- ◆ 広報誌の「ウラ」を知ることができました。今後の広報誌にも期待しています。(野口美幸さん)
- ◆ 初めての取材は財産になりました。また機会があればいろいろなことに挑戦したいです。(藤田直美さん)
- ◆ テーマ選定から最終校正まで、取材内容を最大限生かすための打ち合わせは、特に参考になりました。広報誌を身近に感じるようになりました。(本田忠男さん)
- ◆ 取材や編集会議に参加できて、とても楽しかったし、貴重な経験でした。区民の声が実際に記事になるのは、とても意義があることではないでしょうか。(松原宏実さん)
- ◆ 編集のための会合はとても新鮮でした。取材に参加した経験は、地域のまちづくりに生かしていけます。広報を新しい視点で見直す契機になりました。(宮田敬三さん)
- ◆ 初めてお会いする方ばかりで、参加できて良かったです。白石区のことをもっと知りたくなりました。(綿谷隆さん)

これが
活動成功のカギ
だ!!

- ・無理せず気楽に
- ・お互い強制しない
- ・とにかく楽しむ!

